

令和元年度中国・遼寧省派遣交流職員レポート① ～瀋陽市について～

你好！こんにちは！私は今、神奈川県と友好交流関係にある中国遼寧省に交流職員として派遣されています。これから数回に分けて、遼寧省及び中国について皆様にご紹介したいと思います。

まず、瀋陽がどこにあるかご存じですか？中国の北東部（東北地方）に位置する遼寧省の省都で、東北で最大規模の都市です。東北地方の経済、文化、交通及び商業の中心地で、高速道路や高速鉄道（高鉄）などが密集した交通の要所です。戸籍人口は約730万人で、満州族、回族、朝鮮族、シボ族などの少数民族も暮らしています。



漢代は候城、唐代には瀋州と呼ばれ、現在の「瀋陽」と呼ばれるようになったのは元代です。1616年にヌルハチが女真族を統一して後金国を建国すると、1625年に国都「盛京」と改名されました。1636年に国号を清と改め北京に遷都した後も第二の都（陪都）とされ、栄えました。20世紀前半の中華民国、満州国時代には、「奉天」と呼ばれたため、日本人、特に高齢者には「瀋陽」と言うより「奉天」と紹介する方が、ピンとくる方も多くいらっしゃるようです。

市内には清朝を中心とした歴史・文化遺跡が多く残されており、国家歴史文化名城（中国の文化遺産保護制度の一つ）に指定される観光都市です。瀋陽の市内中心部は大きく3つに分けられます。

1つ目は、瀋陽故宮を中心とするエリアです。ここは清代に奉天城が置かれた場所で、現在も多くの城門・城壁が残されています。清朝初期の皇宮である世界遺産・瀋陽故宮や、20世紀に東北三省を支配下においた大軍閥・張作霖とその長子・張学良の官邸兼私邸である張氏帥府などの観光スポットが多くあります。若者が集まる瀋陽一の繁華街・中街もこのエリアにあります。



瀋陽故宮



張氏帥府

二つ目は、瀋陽駅の東側にある、旧・満鉄付属地のエリアです。瀋陽駅（旧・奉天駅）の駅舎は、100年以上の歴史があり、東京駅の外観とよく似ています。これは、東京駅をデザインした辰野金吾の弟子である太田毅と吉田宗太郎の設計であるためと言われています。夜には駅舎がライトアップされ、とても綺麗です。他にも、遼寧賓館（旧・南満州鉄道直営の奉天ヤマトホテル）など、日本占領期の遺構が多く残されており、現在もそのまま利用されています。また、瀋陽駅の東側には、高級デパートやショッピングモールが立ち並び新興ショッピング街・太原街があり、多くの人でにぎわっています。長期出張・滞在者向けのホテルや日本料理屋なども多く立地しており、瀋陽で働く日本人駐在者の大部分はこのエリアに住んでいます。一方で、瀋陽駅の北東側にある西塔街周辺では、朝鮮族や韓国系、北朝鮮系の店が並び繁華街があり、夜遅くまでにぎわっています。



瀋陽駅



遼寧賓館（旧・奉天ヤマトホテル）

3つ目は、瀋陽北駅周辺に建設が進む金融ビジネス街です。観光の見どころは少ないですが、高速鉄道が発着する瀋陽北駅の南側に、遼寧省高速バスターミナルなどもあり、他都市に移動する際の交通の拠点になっています。



他にも、東の郊外には清朝の開祖ヌルハチの陵墓である世界遺産・福陵（東陵）、北の郊外には清朝の太祖ホンタイジの陵墓である世界遺産・昭陵（北陵公園）があり、多くの見どころがあります。一方、瀋陽の街を横切る渾河こんがの南岸には、IT 関連産業をメインとする技術開発区の建設も進んでいます。

皆さん、魅力的な瀋陽にぜひ遊びに来てください！！